



市民病院

ハナちゃん通信

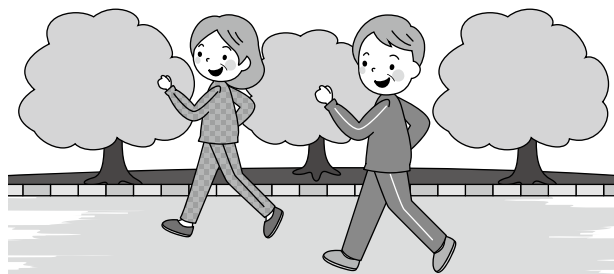
問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

9月21日は、世界アルツハイマーデー

「世界アルツハイマーデー」とは、国際アルツハイマー病協会が認知症への理解を深めてもらう日として制定しました。平成24年には9月を「世界アルツハイマー月間」とし、世界各国で啓もう活動が行われます。県でも、（公社）認知症の人と家族の会によって認知症に関するリーフレットの配布や講演会などが行われる予定です。

皆さんは、認知症になっても安心して地域で暮らせるよう市が取り組みをしていることをご存じでしょうか。認知症について正しい知識を持ってもらえるように「認知症サポーター養成講座」をはじめ、外出して行方が分からなくなった認知症の人の見守り支援「安心ツス!!へきなん支え愛ネット」（メール登録による支援）、そして最近では「認知症カフェ」などもあります。また、市民病院では、受診の相談や介護する人の悩みなどを相談できる認知症看護介護外来（第1・3金曜日の13時30分～15時30分）を行っています。さまざまな支援があるのでどんどん活用しましょう。

そして、私たちがすぐにでも始められることは「予防」です。最近では認知症の多くを占めるアルツハイマー型認知症の発症リスクに糖尿病があることが分かりました。適度な運動やバランスの良い食事（特にオリーブオイルを使った地中海式料理）、買い物など少しの緊張感が持てるような社会交流が予防によいと言われています。生活習慣を変えることは難しいですが、自分が継続できるちょっとしたことから始めていけば十分です。認知症予防で、年を重ねてもいきいきとした生活が送られるようにしたいですね。



碧南の歴史へのいざない

問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

No.29 人物小伝 山中信天翁

文政5年（1822年）、棚尾村東浦（現東浦町辺り）の大地主だった山中家の次男（長男は夭折）として、山中猷（号信天翁）は生まれました。19歳のときに大坂の儒者篠崎小竹の門人となり、のちに家督を継ぐために東浦へ戻りました。

ときは黒船の来航する幕末、京都で医者になるべく、憂国の思いを持って活動していた弟が病死しました。

猷は、弟の志を継ぐ意志を固め、家督をもう1人の弟に譲り、伊勢国津の漢学者斎藤拙堂に入門したあと、安政3年（1856年）35歳で京都へ上りました。



△山中信天翁
（市所蔵）

勤皇の志士（天皇に忠義を尽くす人）や富岡鉄斎などと交流を深めながら、日本の国防についての建白書を朝廷に提出するなど熱心に活動しました。そして、当時洛北にいた岩倉具視の知遇を得て、その能力を認められ、岩倉に重用されました。

明治維新後は高官として功績を残し、登米県（現宮城県）の知事、宮家の家令などに就きました。晩年は一切の官職から退き、明治天皇・皇太后の臨幸を得ることになる京都嵐山の山荘「對嵐山房」に住み、大自然に抱かれた自らの生き方を求め、文人・山中信天翁として過ごしました。



△信天翁山中先生之碑
（霞浦会館内）